

ストーリーテリング（語り聞かせ） 児童文学波の会

6月の読書週間の6月9日（水）、15日（火）に「児童文学波の会」の方による語り聞かせ＝ストーリーテリングが行われました。1年生から6年生までの各学級で、日本や外国の昔話を語り聞かせていただきました。普段、学級担任や読み聞かせボランティアのお母さんが行っている読み聞かせと違って、本を読むのではなく、覚えているお話を聞かせてくれました。子ども達は、お話に耳を傾けながら、自分の頭に中で、お話の情景を想像していました。今度は、自分たちでいろいろなお話の本を読んでほしいと思います。

<聞かせていただいたお話>

- なかよし：「だれのじてんしゃ」「999ひきのきょうだいのひっこし」
「もこもこもこ」「ごきげんのわるいコックさん」「ぐりとぐら」
1年：「ふたりのあさごはん」「ミアッカどん」「ねずみじょうど」「ホットケーキ」
2年：「雌牛のプーコラ」「なら梨とり」「ついでにペロリ」「かしこいモリー」
3年：「足折れつばめ」「マメ子と魔物」「花咲かじい」「七わのからす」
4年：「カラスととげ」「わらしべ長者」「きつねの小判」「ラプンツェル」
5年：「長ぐつをはいたねこ」「まのいいりょうし」「魔法の馬」
6年：「磐治と桐の花」「ティッキ・ピッキ・ブン・ブン」「スワンの錦」



=緊急のお知らせ=

交通事故に注意！！

今年度に入り、市内で子どもの事故が多く起こっています。「自分は大丈夫」と、心のどこかに思っていると、思わぬ事故に遭遇しかねません。「絶対大丈夫」と思うのではなく、毎日の生活の中で、知らず知らずのうちに「注意を怠っていること」を、もう一度自分自身で点検してみましょう。

◆道路を歩くとき◆

- 1 **道路は、端の方を歩きましょう。** 学校周辺の道路の歩き方を見ていると、道の真ん中を歩いている人がいます。車が通らないからといって、真ん中を歩いているのはよくありません。ましてや横に広がってお話しながら歩くのも危ないです。こうした歩き方は、誰が見ても、「危ない歩き方」と感じます。特に道幅の狭い道路では、車も通りやすいように、道路の端の方を歩きたいものです。
- 2 **横断歩道を必ず渡りましょう。** 近くに横断歩道があるのに、そこを通らずに道路を横断してしまう人がいます。車の運転者は、横断歩道のところで人が渡るものだと思っています。したがって、その近くの道路で急に横断したりすると、それに気づくのが遅れて、事故につながる可能性があります。

◆自転車に乗るとき◆

- 1 **ヘルメットを必ずかぶりましょう。** 放課後、学校に遊びに来る人が自転車に乗ってることがありますが、ほとんどの人がヘルメットをかぶっています。中には、かぶっていない人がいるので気になります。万一、転倒したとき、命を守ってくれるかもしれない大事なものが、このヘルメットです。
- 2 **交差点では必ず安全確認をして通過しましょう。** 車の量の少ない交差点ほど危ないです。横切る道から、車が来ると思っていれば、必ず止まったりして安全を確かめます。車は来ないだろうと思うから飛び出しますし、車は来ないだろうと思うから、出会い頭にぶつかったりします。車も自転車も、急には止まることができません。危ないと思ったときはもう遅いことが多いです。

エコキャップ・ベルマーク活動にご協力を！昇降口・教室に回収箱がありますので、いつでもどうぞ。

旭丘小ホームページ<http://asahigaoka.owariasahi.jp/> 尾張旭市HPからもリンクしています。

尾張旭市全体の不審者情報は、尾張旭市HP「安心安全情報ネットワーク」をご覧ください。



安全に心がけよう

① 道路を歩くとき・ 自転車に乗るとき



道路を歩くとき

- 歩道のある道路では、歩道を歩きましょう。
- 歩道のない道路では、道路の右はしを歩きましょう。
- みんなで歩くときは、縦にならんで歩きましょう。横に広がって歩くと、交通事故にあうおそれがありますし、他のひとや車の迷惑にもなります。
- 道路を渡るときは、横断歩道や信号機のある交差点を渡るようにしましょう。近くに横断歩道や信号機がない道路を渡るときは、左右をよく見て、車が走ってこないことを確かめてから渡りましょう。



自転車に乗るとき

- ヘルメットをかぶりましょう。
- 歩道は歩行者優先です。歩いているひとに道をゆずりましょう。



- 交差点では信号を守りましょう。必ず安全確認をしましょう。



- 夜は必ずライトをつけましょう。

- 二人乗りはやめましょう。並んで走るのもやめましょう。



「安全と遊びのルール」より（発行 全国少年警察ボランティア協会）

① 道路を歩くとき・自転車に乗るとき

<親子でおもしろサイエンス>

おなかがなるのはどうしてか

日ごろ突如おなかがゴロゴロ鳴ったり、液状のものがおなかの中を激しく移動するようにおなかが鳴ることよくあります。

では、どうしておなかなるのでしょうか？原因は2つあります。

<1 食べ物を消化するときの音>

胃や腸は、食べ物の消化を助けるために盛んに消化液を出し、伸縮運動などで食べ物とよく混ぜ合わせます。そして小腸や大腸は蠕動（ぜんどう）運動によって、この食べ物を移動させるのです。消化管の内容物（食べ物）の移行は、末端までこの蠕動によって行われていて、胃や腸の中には、つねに空気やガスが入っており、腹鳴は蠕動運動によって腸の内容物やガスと一緒に移行します。そのとき勢いづいて生ずる音がそれです。

コップに水を入れ、その水中のストローから空気を吹き込むとボコボコと音が出ます。この現象が腸内でも起こっていると考えてよいのです。

<2 おなかが減るときの音>

また、腹鳴とは全然違う現象ですが、食後十数時間もして空腹が絶頂の頃ともなると、グーッという、かなり大きな音をおなかが発します。その音は他の人にもよく聞こえ、「おなかの虫が鳴る」と一般的によく言います。

普通、正しい時間を決めて食事をしているときは、胃腸はいつでも応じられるように準備しています。つまり、食べ物がいつ何時不意に入ってきてもいいように臨戦態勢ができていているというわけです。ところが十数時間も絶食していると、胃腸は待ちくたびれて臨戦態勢を解除してしまうのです。このままでは消化器全体を維持するためのエネルギーが無駄になるので、戦線を縮小しなければならないのです。この縮小というのが、文字通り胃や腸が小さく縮んでいくことなので、キューッやグーッという腹の虫の声の正体は、実はこの胃腸が縮小するときになる音だったのです。

